

9月定例記者会見 会見録

令和2年（2020年）9月2日（水） 11:00～12:00 庁議室

質疑応答

■「ソトカフェ」について

記者A

県内他自治体において、同様の事例はありますか。また、感染防止や特に気をつけていること、特筆すべき取組があれば伺います。

都市計画部長

県内の取組としては初めてではないかと思えます。

また、感染防止対策として、消毒用アルコール、ふきんを用意します。また、特徴としては座席数の多さで、全体で94席となっています。なお、座席やテーブルの管理の一部は、ホテル日航つくばに御協力いただく予定です。

記者C

センター広場1階のクラフトビールのバーテラスの営業時間は、何時から何時までですか。

都市計画部長

週3日の営業で、金曜日は17時から、土日は12時からオープンします。閉店時間は、すべて23時です。

記者C

9月5日（土）から開始ということですが、セレモニーイベント等を行いますか。

都市計画部長

実施しません。

記者C

今回の取組に関して、現行の法律に対してどのような緩和措置があり、実施が可能になったのか伺います。

学園地区市街地振興室長

6月に、国土交通省が、道路空間の店先利用の緩和を行いました。つくば市は、センター広場において、以前より実証的に店舗やマルシェなどの開催を行っていましたが、それらと合わせて公共空間を店舗やオープンテラスとして利用できるようになりました。

記者C

センター広場は、元々利用できたということでしょうか。

学園地区市街地振興室長

センター広場は、道路扱いになっていることから、道路上でのこのような取組の実施は、本来難しいところでした。つくば市では、実証実験として、これらの活用を進めてきましたが、今回の緩和を受け、このような取組を広げることができました。

記者E

つくば市内の出店事業者は、何店舗ありますか。また、オープンテラスの飲食店で購入したものは、その場で飲食が可能か伺います。

学園地区市街地振興室長

出店事業者は10店舗で、そのうち6店舗は市内の事業者となります。なお、購入したものは、その場で飲食可能です。

記者F

売上や来客層の見込みがあれば伺います。

学園地区市街地振興室長

それらの点については、事業を実施しながら、見極めていきたいと考えています。

記者F

雨天時の営業判断について伺います。

学園地区市街地振興室長

テント出店やキッチンカーの営業は出店者の判断となります。なお、テーブルや椅子は、常時設置してありますので、雨天時でも利用は可能です。

■旧小田小学校を活用した「小田小交流プラザ」について

記者C

オープンに当たり、セレモニーイベント等を行いますか。

都市計画部長

実施しません。なお、開館日である金・土・日は、地域の方々（管理運営者：小田まちづくり振興会）が1～3人程度、アシスタントとして常駐し、おもてなしをする予定です。

記者D

「箱貸し」として貸出ができるのかということと、今後、管理運営者の主催するイベントの開催予定の有無について伺います。

周辺市街地振興室長

一部施設の貸出については、市民活動団体等に貸し出すことができます。また、管理運営者がイベント等を主催することもあります。

なお、同振興会が主催するイベントとしては、小田小交流プラザを起点とした宝篋山の登山ツアーや小田城の歴史を学ぶ歴史ツアーなどを今後検討していきます。これまでは、夏休み期間中の子どもを対象とした学習支援や、筑波大生による、科学実験教室を開催しました。

■市が主催するイベントについて

記者B

イベントは、今後いつ頃から再開するのか、目安があれば伺います。

市長

国の判断を踏まえ延期、中止としていますが、今後も国の動向を基本としながら、その時点での市内感染状況を踏まえながら、判断をしていきます。

■自民党総裁選について

記者B

市民としては、今後の政府の新型コロナウイルス対策がどうなるのか、非常に関心があると思います。市長が、新たな首相に対して、期待したいことがあれば伺います。

市長

既に国へ要望していますが、地方創生臨時交付金は、財政力指数に応じて配分される仕組みとなっているので、都市部の自治体では、「この配分方法に課題が多いのではないか。」ということが問題提起されてきました。新たな首相に対しては、感染者数等の実態に応じて、感染者の多い都市部に対して、支援や対策を手厚くすることを期待しています。

記者B

今回の自民党総裁の決め方ですが、党員の投票が省略されることが検討されていますが、一自治体の首長として、このことをどのように思いますか。

市長

これは政党内の話ですので、私がコメントをする立場ではないと思います。

■つくば市長選について

記者C

この4年間を振り返ってみると、総合運動公園の用地問題について、市長から議会に

売却の提案をしましたが、議会から様々な案を検討するため、特別委員会が設置されました。また、中心市街地の開発についても、市長から議会にクレオのリニューアル案を提案しましたが、議会との意見が一致せず、現在は、アイアイモールを活用した代替案を検討していると思います。市長だけの責任ではないと思いますが、住民からすると、足元の課題が進んでいないように見えると思います。このことについては、どのように説明されますか。

市長

二つとも大きな問題ですので、丁寧なプロセスを踏むことが重要だと考えています。総合運動公園の用地問題は、私としては、早めの売却により固定資産税等の税収を得ていく方が良くと考え、売却を提案しました。ただ、議会としては、もう少し様々な案を検討した方が良くという御意見となりました。

現在のつくば市議会は、ただ反対するだけの議会ではなく、きちんと委員会を立ち上げて、議会としての提言をまとめていくという方向性を示されています。地方自治体は、二元代表制となっています。議会も市民の代表ですし、私も市民の代表です。どのような活用法が本当に良いか、これから議論していく必要があると思っています。私としては、議会の御意見は尊重します。

中心市街地の開発についても同様で、結果として、議会の委員会が立ち上がりました。まだまだ提言をいただいていく段階で、議論する過程でも、議員の皆さんから「問題への理解が深まった」というお話を伺いました。そのような意味でも、議会への提案は必要なプロセスだったと思っています。現在、センタービルのリニューアル案のパブリックコメント等を実施したところですが、議会とほぼ同じ方向性を向いていると考えています。

そうやって時間をかけてでも丁寧に進めていくことが、結果として、街にとってプラスになると私は思いますし、健全な民主主義の形だと思っています。

記者C

人によっては、「スピード感がない」というご批判につながると思うのですが、スピード感よりも、議会との合意形成を図りながら、丁寧にプロセスを進んでやっていきたいという市長の政治姿勢なのか伺います。

市長

はい。どちらかというところ、つくば市は色々なことが早いという評価をいただくことが多いです。ただ、大きな問題を、拙速に進めるということは良くないと思っています。時間的な制約がある中で、最善と考える提案を議会に提出していますが、それに対して、議会の中で異議があるのであれば、議員の皆さんが納得をされるか、少なくとも判断をしていただける状態になるまで議論をしていただくことが大切であると思います。これらのプロセスを飛ばしてしまえば、ただの独裁になってしまいます。民主主義というものは、時間を必要とするものですし、大きな案件を決めるプロセス自体が学びのプロセスですので、私は必要な時間だと考えています。

■市が委託しているゴミ収集業者の不正疑いについて

記者B

先日、市長のツイッターで、市から委託を受けているゴミ収集業者の不正に関する調査状況を投稿されました。現時点では、まだ事実認定を詰めている段階で、他の自治体との調整もしている状況だと思います。なぜ、この時期に調査の進捗を公表されたのか、経緯と本事業に関する市長のお考えを伺います。

市長

本件は、断じて許されることではありませんので、きちんと調査をして、確定した上で、行政処分や刑事告発を考えています。

調査については、70か所ほどの事業所の聞き取り等が必要になり、既に60か所ほどは終了しており、もう少しのところまで確定するところでしたが、インターネット上に動画が流れ、市民の皆様の御関心が高くなりましたので、現在の状況をお示ししたところでした。

記者B

市に問い合わせがあったので、途中段階ではあったけれども、一定の状況を公開されたという理解で良いか伺います。

市長

はい。説明責任を果たす必要があると思いますし、十分、公開して良い状況と判断しました。

記者B

今後、行政処分や刑事告発が想定されますが、いつ頃、どのような形で実施するのか伺います。

市長

確定次第、できるだけ早く行うべきだと思っています。現在、その準備を進めていますので、そう遠くない時期に実施できるのではないかと思います。

記者G

ゴミ収集業者の不正について、NHKから国民を守る党の立花代表のYouTubeでの発言を見ていると、3月に内部告発があり、市に通知があったとのこと。これまでの5か月間、目立った動きがなかったと言っています。先ほど、市長から事業所の聞き取り調査が約70か所あると伺いました。一日に5事業所調査すれば、2週間程度で終了すると思います。なぜ5か月もかかっているのでしょうか。立花代表のYouTube動画を受けて、慌てて対応している印象です。これまで5か月間、何をやっていたのですか。

市長

先ほど申し上げたとおり、調査は、警察と相談し、他自治体とも協議をしながら実施しています。現地調査も、様々な形で、複数回実施していますので、時間はかかってしまうものだと思っています。職員は、当初から問題意識を持って、一生懸命調査をしています。そのようなプロセスで、現在、ほぼ調査が完了してきているところです。YouTube動画があったから動き出したということは一切ありませんので、その部分は良く御理解をいただければと思います。

記者G

市の焼却施設へ廃棄物を持ち込む事業者は、他にも大勢いるのではないかと思います。他の事業者にも、同じようなことをしていないか、きちんと調査をしているのか伺います。

市長

いいえ。今回のような行為を、他の多くの事業者がやっているとは考えていません。調査を実施している中で、他の事業者から「あのようない行為を、全ての事業者がやっていると思われるは困る」という声も聞いています。そのようなことはないと考えています。

記者G

私も、色々な関連の人に尋ねたところ、「あの行為は、ある意味常識だ」と言う人もいたので、かなり広く行われているだろうと推測しています。

また、内部告発した従業員は、かなりのリスクを取って市に通報しています。事業者の雇用主も、内部告発者を特定できていないのでしょうか。この告発者は、今後、職を失う可能性もありますので、今回の不正行為の是正によって、市に入ってくる収入のうち、1割や2割程度を差し上げて、市で表彰するようなことをしないと、内部告発は広がっていかないと思います。市長の考えを伺います。

市長

それは、質問記者の独自の見解であると思いますので、御意見として受け取っておきます。

終了